

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都五条ホテル(仮称)

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目等		重点項目に対する全国版評価基準の見直し				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												3.2	
Q1 室内環境									0.40		-	2.8	
1 音環境								2.6	0.15	3.4	1.00	3.0	
1.1 室内騒音レベル								3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音								3.0	0.40	4.1	0.40		
1 開口部遮音性能						宿泊)サッシ遮音性能T-2		3.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能						客室でD _r 値=50		-	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						客室でL _r 値=45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音								1.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境								2.0	0.35	2.4	1.00	2.2	
2.1 室温制御								3.0	0.50	3.8	0.50		
1 室温						宿泊)窓SC=0.454窓U=2.9外壁U=0.983屋根U=0.809		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能								3.0	0.25	5.0	0.43		
3 ゾーン別制御性								3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御								1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式								1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境								3.0	0.25	3.3	1.00	3.2	
3.1 昼光利用								4.2	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		●自然	A(全国版準用)	共用)2.5%≤[昼光率]、宿泊)1.25%≤[昼光率]				5.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口								-	-	-	-		
3 昼光利用設備		●自然	B(推奨内容)					3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策								2.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御		●自然	B(推奨内容)					2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度								3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御								3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境								2.8	0.25	3.3	1.00	3.1	
4.1 発生源対策								4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質						F☆☆☆☆建材を全面的に使用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気								2.0	0.30	2.3	0.38		
1 換気量								3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		●自然	A(全国版準用)					-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮								1.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理								1.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視								-	-	-	-		
2 喫煙の制御								1.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能								-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性								3.1	0.40	3.3	1.00	3.2	
1.1 機能性・使いやすさ								3.0	0.40	3.5	0.60		
1 広さ・収納性						各客室で100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能		-	-	3.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応								-	-	4.0	0.50		
3 バリアフリー計画		●大切	D(独自基準)					3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性								3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)		●とも	C(独自加算)					-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース								-	-	-	-		
3 内装計画		●自然	D(独自基準)					3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理								3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計						トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に垂鉛メッキ処理等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保								3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性								3.4	0.30	-	-	3.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振								3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						重要度係数I=1.3		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能								3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数								3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		●大切	A(全国版準用)					3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔								2.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備				3.2	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			マルチケーブル、光ケーブル等通信の多様化等	4.0	0.20	-	-	
						3.6	0.30	2.6	1.00	3.0
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり				-	-	2.2	0.50	
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	宿泊)0.1≦[壁長さ比率]<0.3	-	-	1.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり						-	-	4.0	0.40	
3.3 設備の更新性						-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.6	1.00	-	-	
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	保護管等により仕上材を痛めずに更新・修繕	3.0	0.20	-	-	
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	PF管等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		5.0	0.10	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	●大切	A(全国版準用)	PH1階に予備スペースがある	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)										
1	生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)	自然に親しめる通庭の設置等		-	0.30	-	-	3.8
2	まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加減) D(独自基準)	景観地区にあり、認定を取得している。		4.0	0.30	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.40	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、自然	A'(全国版準用)	犬矢来を設置し地域文化に貢献、見通しの良いファンスで防犯性に配慮等		3.5	0.30	-	-	3.5
	3.2 敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)			4.0	0.50	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.88		-	0.40	-	-	4.1
2	自然エネルギー利用	●自然	A(全国版準用)			4.2	0.20	-	-	4.2
3	設備システムの高効率化	●自然	C(独自加減)	[BEI][BEIm] = 0.69		3.0	0.10	-	-	3.0
4	効率的運用					5.0	0.50	-	-	5.0
4.1 モニタリング						2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価					2.5	1.00	-	-	
	4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価					2.0	0.50	-	-	
	4.1 モニタリング					-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										
1	水資源保護					-	0.30	-	-	3.6
1.1 節水						3.4	0.20	-	-	3.4
	自動水栓や節水型便器、擬音装置を採用					4.0	0.40	-	-	
						3.0	0.60	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.70	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.30	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減					3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	ビニル系床材:床、断熱材:スラブ、地域産木材:外部軒天井		5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1	有害物質を含まない材料の使用					3.3	0.20	-	-	3.3
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.30	-	-	
						3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤					-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)				発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										
1	地球温暖化への配慮				消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	-	0.30	-	-	3.4
2	地球温暖化への配慮					4.0	0.33	-	-	4.0
2.1 大気汚染防止						3.0	0.33	-	-	3.0
	2.2 温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)			3.0	0.25	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.50	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
	1 騒音					3.0	0.50	-	-	
	2 振動					3.0	0.50	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制						-	-	-	-	
	1 風害の抑制					3.0	0.40	-	-	
	2 砂塵の抑制					3.0	0.70	-	-	
3.3 光害の抑制						-	-	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害チェックリストの過半を満たす	3.0	0.30	-	-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)			4.4	0.20	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる